

盲導犬ユーザー コロナ禍の外出時の困りごと調査 「消毒液の置き場所や 人との間隔が分からない」

周囲の声かけが必要です

公益財団法人日本盲導犬協会（井上幸彦理事長）は、盲導犬歩行のフォローアップの一環で、毎年1、2月にユーザーへの聞き取り調査を行っています。今回はその調査（盲導犬を使用する視覚障害者227人対象）でコロナ禍での外出時の不安や困りごとについても尋ねました。

感染防止のためにソーシャルディスタンスの確保や外出自粛、頻繁な手指消毒が求められていますが、ユーザーからは「レジに並ぶ列でも人との距離が分からない」「消毒液の置き場所が分からない」といった困惑が寄せられました。周囲から「お手伝いしましょうか」と声をかけるなどちょっとした気遣いがあれば、こうした不安は和らぎます。「新しい生活様式」でも誰もが安心して暮らせる社会となるよう、視覚障害の方へのサポートの重要性を訴え、市民のみなさまに協力を呼びかけたいと考えます。

【聞き取り調査の概要】

①外出時の不安・困りごとで最も多かったのは「ソーシャルディスタンスが分かりづらい」

設問は選択肢8つの複数回答でしたが、抜きんで多かったのが「ソーシャルディスタンスが分かりづらい」で41%。「周囲に手引きなどのサポートを頼みづらい」(22%)、「商品などを触るため周囲の目が気になる」(21%)など、周りに気兼ねしながら外出するユーザーの姿が浮かんできます。

自由回答では「消毒液の置き場所が分からない」「スーパーのレジに並ぶのに距離感や進み具合が分からなくて困った」といった意見が多数ありました。

②コロナ感染を理由にサポートや受け入れを断られる

不安・困りごとの選択肢8つの中で、「犬の感染を理由に拒否に遭うのでは」は12%でしたが、実際はどうだったのか。「コロナ感染を理由に店や施設でサポートを断られたり、入店を拒否されたりしたことがあるか」と質問したところ、14人(6%)が「ある」と回答。コメント欄を見ると、「デパートの地下売り場で買い物をしようと、いつも通りの誘導を依頼したら、『感染症対策のためにできない』と受付で断られた」という事例もありました。

③受け入れ拒否は暫定的に減少

盲導犬同伴を理由にした「受け入れ拒否」については、93人（41%）が「ある」と回答。ここ数年は60%前後で推移してきましたが、今回は大きく減りました。コロナによる外出自粛要請でユーザーの外出頻度が減ったのが要因と推察されます。

別紙にて、「コロナ禍の盲導犬ユーザー 外出や社会参加での『困りごと』聞き取り調査報告」を公開いたしますので一読ください。

【社会理解へ向けた活動】

この調査結果を受けて、日本盲導犬協会では、コロナ禍で盲導犬ユーザーと共に活動する視覚障害の方の実態を伝えると同時に、社会での受け入れ理解とサポートを呼びかけるために「オンライン盲導犬ユーザー受け入れ・接客セミナー」を定期開催いたします。

4月19日、飲食店を対象としたセミナーを最初に、月1回のペースで開く予定です。詳細情報は下記協会ホームページにて公開しています。

<飲食店向け> https://www.moudouken.net/news/article/page_584.php

宿泊事業者向けセミナーは、6月16日に開催予定です。

<宿泊事業者向け> https://www.moudouken.net/news/article/page_291.php

以上、ぜひ報道いただけますようよろしくお願いいたします。

資料に関するお問い合わせ、取材をされる場合は事前に下記連絡先までご連絡ください。

【本件に関する問い合わせ先】

公益財団法人日本盲導犬協会 総務部広報室 八巻

〒150-0045 東京都渋谷区神泉町2-1-3-3F

TEL : 03-5452-1266

email : k-yamaki@moudouken.net